

働くことの意義と社会の在り方
～「公共」×「保健」の協働実践～
～小中高学びの連続性を活かしたカリキュラム開発～

授業者 附属高等学校池田校舎 神内千波（地歴公民科）

1. 対象 附属高等学校池田校舎 第2学年2組（40名）

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

職業選択や雇用・労働問題について、少子高齢化や人工知能の発達、産業構造の変化など様々は社会的変容によって変化することを理解する。

・思考力、判断力、表現力等に関して

単元を貫く問い「なぜ人は働くのか？」について、対立と合意、効率と公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。

・学びに向かう力、人間性等に関して

社会での働き方の在り方について、自らの将来の働き方と結びつけて考えることができる。

3. 指導に当たって

（1）教材観

この単元を通して、現代社会の特質や社会生活の変化と関わりの中で職業生活をとらえながら、今後新たな発想や構想に基づいて新たな価値を創造しようとする姿勢を育てたい。しかし、高校生にとって「働く」とは、将来の身近な問題でありながら自身のこれまでの経験と結びつけて考えることが難しい。そのため自分ごととして考えることが難しい教材である。まず、働くことは賃金を得るだけでなく、自己の能力を発揮し、社会を創る意義があることを実感させる必要がある。社会や自己、他者など様々な観点から「働く」ことについて、考えさせる場を教科融合という方法を使って実践する。「保健」では身近な大人から働くことについてイメージや考えを持たせ、「公共」では、産業の変化・人工知能の進化・グローバル化等社会の急速な変化が職業選択や社会にどのような影響を及ぼすのか考えさせることを通して、自らが社会を創る自覚をもたせたい。

（2）生徒観

単元の始まりに「働く意義」について、対象生徒にアンケートをとった結果が以下の表である。アンケートから、「働く」ということに対しては前向きな生徒が多いようである。しかし、現時点では働くことへの動機づけやイメージは具体的に浮かんでいないことも分かる。そのため、自分の生活や自身の立場のために働くべきだという意見が多くを占めた。本来、働くとは、自分のためでありながら社会を創る活動である。その本質に気付かせられる授業展開が必要である。

【働きたい理由】

金銭のため 自分で稼いだお金でやりたい ことがしたい	社会的地位の確保	働かなければ孤独に なる	憧れている職なら働きたい
仕事によっては楽しそう	人間関係が欲しい	社会的地位の確保	今勉強しているのは、すべ て良い企業に就職するため だから

【働きたくない理由】

自分の好きなことをしてい たい	長時間拘束されるから	ストレスを受けたくない	親のすね一をかじっていた い
可能であればゆっくり過ご したい	夢がない、ダラダラしたい	好きではないことは進んで しようと思えないから	

(「働くことと健康」第1限目のアンケート結果より)

(3) 指導観

社会科では小中高の連続した学びを活かすカリキュラム実践に取り組んでいる。その中で、小中高合同で社会科の授業を实践したのだが、高校生は社会課題に対して社会のシステムや仕組みを言及する考えが多いのに対して、その課題に自分がどのように関わるのかの記述は少なかった。具体的には、池田キャンパスが抱える問題である「登下校の混雑問題をどのように解決するか」を小中高の子どもたちで考えたのだが、小学生が「自分たちで頑張り賞を作って、列を作って並んでいるかチェックし合う」や「ポスターを作って呼びかける」等、児童自身で実践する解決策が多かったのに対して、高校生は「路線バスを通して、徒歩だけでなくバスを活用する」や「市民の皆さんにも通行の場所を変えてもらうように呼びかける」等周りや社会へのアプローチが多かった。ぜひ、社会課題を自分ごととして捉え、自分がどのように関わるのかまで考えて欲しい。そのため、より真正な教材になるように工夫したい。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・職業選択や雇用・労働問題について、少子高齢化や人工知能の発達、産業構造の変化など様々は社会的変容によって変化することを理解している。	・単元を貫く問い「なぜ人は働くのか？」について、対立と合意、効率と公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	・社会での働き方の在り方について、自らの将来の働き方と結びつけられるよう考えを調整している。

5. 単元指導計画 (単元計画は変更することがあります)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	AIによって本当に私たちの仕事は失われるの？	社会の変化から職業選択の在り方を考えることができる	●	●	●	ワークシート
2	産業の発達によって、職業の在り方がどう変わったの？	産業発達によって、キャリア形成がどのように	●	●		ワークシート

		変わってきたのか考えることができる				
3	望ましい労働環境とはどうあるべきか？	なぜ働き方改革が求められているのか考え、自分の意見をもつことができる。		●		ワークシート
4.5 【本時】	人はなぜ働くのだろうか？	人が働く意義について本質まで深めて考えることができる。		●	○	パフォーマンス課題

●・・・形成的評価（指導に活かす評価）

○・・・総括的評価（記録に残す評価）

6. 本時の展開（本時の展開は変更することがあります）

(1) 本時の目標

「働く」ことが自己実現やキャリア形成に繋がるだけでなく、社会を創っていることを実感し、自分の将来やキャリアと関連づけながらどのような社会を創っていくのか考えることができる。

(2) 本時の評価規準

（思判表）単元を貫く問い「なぜ人は働くのか？」について、対立と合意、効率と公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。

（主体性）社会での働き方の在り方について、自らの将来の働き方と結びつけて考える力を養う。

(3) 本時で発揮されるグローバル市民性について

附属高等学校池田校舎においては、池田地区の目標である社会の平和と安全に寄与する資質・能力の育成と国際性の涵養の育成のもと、本年度は「グローバル市民性の育成」をめざしている。「グローバル市民性」とは、「多様性社会の中で協働する力」「自律的に行動する力」「実社会に生きる知識・技能」の3つの軸から成り立つものと定義され、グローバル社会を協働的に創造することができる人材を育成することをめざしている。本授業においては、①「保健」と「公共」という異なる視点から課題に取り組むことで、生徒が自らの考えを俯瞰して認識し、異なる考えの中で自分の考えを見直し、深めることができること②「保健」と「公共」それぞれの学びを関連づけながら相互に真正な学びを得ることができることが期待される。

(4) 展開（本時）

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 分	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が答えてくれた「働く意義」のアンケートを共有する。 本時の目標を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「働く」意義が金銭面だけでなくここにあるのか課題意識をもたせる。 	
「手作り人生ゲーム」を作成しよう！			

展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・職業を指定する ・人生ゲーム作成にあたってのルールを確認する (必要な項目を示す) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生ゲームでは、単に双六を楽しむだけでなく、お金を稼ぐことだけでない「働く」意義や本質に気づくように指導する。 ・現行で施行されている税制や法律等を資料として配布する ・キャリア形成とライフプランニングの軸で考えるように支援する。 	
	「人生ゲーム」を実践しよう!		
	<ul style="list-style-type: none"> ・人生ゲームを実践し、自らのゲームに改善を加える 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのゲームを体験する中で、自分では気づいていなかった視点に気づくことができる。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りを行う 		ワークシート

(その後の展開 (公開授業①保健×公共) にて実践)

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の目標を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「働く」意義がどこにあるのか考えることを強調する。 	
力作!人生ゲームを通して、「働く」本当の意味や意義について考えよう!			

展 開 4 0 分	<ul style="list-style-type: none"> ・公共で生徒が作成した人生ゲームを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生ゲームでは、単に双六を楽しむだけでなく、お金を稼ぐことだけでなく「働く」意義や本質に気づくように指導する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・人生ゲームを通して考えた「働く」意義や意味についてグループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なるゲームを実践したチームをグループにして、様々な角度から物事を考えられるようにする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 授業を受ける前の自分たちが書いた「働く」についてのエッセイに向けて手紙を書きます。 </div>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を受ける前に考えた自分の意見を振りかえり変化に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を受ける前の自分の意見を否定するのではなく、さらに学びが深まったことを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート（主）（思判表）
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りを行う 		

(5) 準備物

- ・ Chromebook
- ・ 画用紙
- ・ 色鉛筆

7. 参考文献

- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〈高等学校 公民〉』国立教育政策研究所 (2020)
- ・ https://www.mext.go.jp/content/20230515-mxt_kyouiku01-000016477.pdf (2023/10/18)